

【しりしり】

「もう、かいじいのたのみは、きかんぞい」

下痢腹をおさえながら、ぼくはいいました。

「わたしはもう、頼みません。こんどはきつと、金ちゃんが頼む番ですから」

懐爺は真面目な顔でこたえました。

「ばれたか」

「それで、どういう頼みでしょう」

「【ごーや】ばかりくって、しりのあながかゆい、かゆくてたまらん。いくらくさってなくとも、おぼけをくうのは、もんだいがあるぞい」

「尻が玉らんですか」

「じょーだんじゃない。かいじいのせいじゃろ」

「すみません、善処します」

「わしのしりのあなを、かいてくれるんか」

「わたしはこうみえても、清潔好きです」

また嘘をいったな。

「だば、なんとしてくれる」

「それは、不潔なお尻の穴にとりつく、【しりしり】という不潔なおぼけです。別名【かゆかゆ】ともいいます。あんまりかゆいんで、お尻の穴にすりこぎ突っ込んだ、おかまがいます」

「どうにか、ならんかのう。わしも、おかまになりそうじゃ」

「大根をすりおろして、その汁に充分お尻をひたせば、なんとかなりますよ」

「だいこんは、いまはないのう。たくあんじゃだめかのう」

「たくあんですか。たくあんの元は大根ですから、たくあんでも、いいということにしましょう」

「いいかげんじゃのう」

「丁度好い加減です」

「だども、くさいしりに、くさいたくあんじゃ、かえって【しりしり】を、よろこばすことに、なりやあせんか」

「それもそうですね。なら大根はやめて、人参をすりおろして」

「いいかげんじゃのう。にんじんがなけりゃ、こんどは、ごぼうかい」

ぼくは呆れ果てていました。

「そのとおり。というのは、【しりしり】とは、元々すりおろすという意味ですから、すりおろしたのなら、なんでも【しりしり】に効くんですよ」

「そうかい」

いいかげんに返事しました。

「そうです。それでは、【しりしり】の歌でもうたいましょうか」

「ききとうない」

とつとと家に帰ると、たまたま、玉葱があったので、それをすりおろして、お尻をひたしました。

効果観面（こうかてきめん）。

ぼくの尻は、まったくかゆくなくなりました。

けれども、そのかわり、なんともいえぬ、しみる痛みがしばらく続きました。

ぼくはそのとき、痒みよりも痛みのほうがまし、ということに気づきました。